

---

領域名：母性保健看護・助産

報告者：下中 壽美

---

**教育及び実践の課題**

近年、周産期における妊産婦の自殺予防や虐待予防の観点から周産期のメンタルヘルスケアは重視されている。学部教育では、助産師教育の中で周産期メンタルヘルス関連の講義を1コマ入れているが、看護師教育では産後うつ病などを産褥の異常で触れるのみであり、詳細な部分は伝えていない。臨床現場でメンタルヘルスニーズを持つ妊産婦は増えてきており、教育の必要性やニーズはあるが、基礎教育の中で十分に教育できているとは言えず課題であった。

---

**活用した論文の概要**

助産師の周産期メンタルヘルスケア能力を向上させるために、研究者らは大学内でモジュールを開発し、提供した。このモジュールは、メンタルヘルスの問題について女性と関わる際の知識、スキル、および態度を向上させることを目的としていた。モジュールの評価のために事前事後試験が計画された。対象者は、アイルランドでダイレクトエントリー助産学位プログラムを受講している学生である。事前調査には28名、事後調査には26名が回答し、前後の対応のあるデータは25組であった。対応のあるt検定の結果、モジュール受講後、受講生の知識と技術は有意に向上していた。受講生からのコメントでもモジュールの評価は高かった。

---

**教育及び実践への活用**

令和5年度の学生への講義より本論文のモジュールで重点をおいていたエッセンスを学生に伝えている。具体的には、①周産期のメンタルヘルスに関する女性とそのパートナーの教育、②周産期のメンタルヘルスの問題を発症するリスクが高い女性を早期に特定すること、③女性が母親になることについての心配や懸念（過去のメンタルヘルスの問題を含む）について話し合う機会を提供すること、④女性を母親として肯定する、⑤女性に出産経験について話す機会を提供する、⑥セルフケア戦略やサポートグループに関する情報など実践的な支援と情報を提供する、⑦産後の睡眠と休養の機会を提供することなどが、女性のメンタルヘルスへ肯定的な影響を与えることを講義のスライドに含めて学生へ伝えている。助産学生へは特に⑤について、バースレビューの意義の中でも母親のメンタルヘルスへ肯定的な影響を与えることも強調した。看護学生へは産後にメンタルヘルスの問題が生じやすいことと合わせて女性のメンタルヘルスへ肯定的な影響を与えることを伝えた。11月から始まる看護学生の演習・実習を通して、講義の学びを実習現場で結び付けられるようにしたい。

---

**参考文献**

Higgins A., Carroll M., Sharek D. Impact of perinatal mental health education on student midwives' knowledge, skills and attitudes: A pre/post evaluation of a module of study. Nurse Education Today, 2016;36:364-369